

台風9号による西湘バイパス被災箇所の 対応・復旧状況について【9月9日21時現在】

記者発表資料

台風9号による異常波浪により被災した、国道1号西湘バイパス大磯西IC～西湘二宮IC間の対応・復旧状況をお知らせします。
現在、被災状況の点検を終え、道路の復旧に全力を尽くしております。

《西湘バイパス被災箇所の対応・復旧状況について》 9月9日21時00分現在

場 所：自)神奈川県中郡大磯町国府新宿地先
至)神奈川県中郡二宮町二宮地先
路線名：国道1号 西湘バイパス 5.000kp～6.000kp
被災延長：約1,000m
被災内容：・重力式擁壁倒壊・流出 約1,000m
・路面崩落、壁高欄式ガードレール倒壊（約1,000mの一部）
・照明灯倒壊 4基

《対応・復旧状況》

9月9日の作業等内容

- ・防災ドクターおよび専門家による、被災現場点検調査を行いました。（詳細別紙）
- ・土砂流出防止のためのシートパイル（鋼矢板）施工に向け、アスファルト舗装版の切断工および布堀工が完了しました。
- ・土砂流出防止のためのシートパイル（鋼矢板）施工の準備を進めています。
- ・復旧の方法などについて詳細な検討を引き続き行っています。

※復旧状況写真は別添資料参照

9月10日の作業予定

- ・土砂流出防止のためのシートパイル（鋼矢板）の施工を行います。

交通復旧に向けた当面の作業について

- ・上り線を用いた交通の確保に向け、被災区間全線にシートパイルを打設し、道路構造の安全性を確保する予定。

通行止めの西湘バイパスを迂回するために、平塚市から小田原市の国道1号が大変混雑しています。東京・横浜方面から小田原・静岡方面への移動の際には、小田原厚木道路、東名高速道路、国道246号などをご利用下さい。

なお、詳細情報については、横浜国道事務所ホームページでもご覧になれます。
「よここナビ」（<http://www.ktr.mlit.go.jp/yokohama/>）

平成19年9月9日

国土交通省関東地方整備局

横浜国道事務所

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ	神奈川建設記者会
神奈川県政記者クラブ	横浜海事記者クラブ

問合せ先

国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所
〒221-0855 横浜市神奈川区三ツ沢西町13-2
TEL 045-311-2981(代表) 045-316-3536
計画課長 土肥 学(どひまなぶ) 内線 301
管理第二課長 塚崎 敬治(つかさき けいじ) 内線 471

被災現場点検の結果

点検日 : 平成19年9月9日(日)

点検者 : 谷 和夫 (横浜国立大学大学院工学研究院教授、防災ドクター)
宇多高明 (土木研究センターなぎさ総合研究室長、日本大学客員教授)
松尾 修 (土木研究所耐震研究グループ長)
大下武志 (土木研究所技術推進本部主席研究員)

《防災ドクターの見解》

○被災原因について

- ・ 今回の災害は、台風9号による異常波浪(長周期波)が原因と考えられる。周辺で観測された波浪から推察すると、通常の波の周期に比べ2~3倍の長周期の波高の高い波が押し寄せ、この結果、構造物への影響は4倍相当以上に増大したと考えられる。
- ・ 建設から現在に至るまでの砂浜の後退等により、特に前浜のない箇所では、擁壁等の道路構造物前面の水深が深く、波浪のエネルギーが衰退することなく、道路構造物に衝突し、大きな破損となったものである。
- ・ 擁壁等の道路構造物の基礎部分の地盤が吸い出され海側に傾き、波の直撃により背面土砂の流失、道路面の倒壊と進行したものと推察される。

○応急復旧について

- ・ 土砂流失が一部で道路のセンターまで達しており、不安定な状況にある。このまま放置すると小さな波浪でも土砂の流失が継続し、道路全体の倒壊の危険もある。
- ・ 出来る限り速やかに土砂流出を抑えることを最優先すべきであり、中央分離帯脇への鋼矢板の打設は有効な対策である。
- ・ ただし、鋼製矢板による復旧はあくまでも暫定的なものであり、新たな台風の来襲等による波浪に対しては万全ではない。
- ・ 危険と判断される場合には、通行止め等に適切な対応が必要である。

西湘バイパス 復旧状況写真



西湘二宮 I C から大磯西 I C 方面を望む
(8日 20時00分撮影)



大磯西 I C から西湘二宮 I C 方面を望む
(9日 6時00分撮影)



布堀工の状況
(9日 12時00分撮影)



シートパイル施工のための
クレーンを現地にて設置
(9日 15時00分撮影)